

# 建武中興

光嚴帝廢せらる

記録所

中央政府 雜訴決斷所

武者所

關東管領

地方政治 奥羽を鎮せしむ

國守を置く

内奏多し

賞罰當を失ふ

大内裏造營

民力休養を忘り給ふ

京都の混雜

訴訟の紛亂  
兵士の不規律

## 親政

## 親政の弊害

## 中興の業破る

武士の不平  
人民の不平  
公卿の不平

## 第二 足利尊氏の反

### 源義家—義國

義重—義包—義房—政義—政氏—基氏—朝氏—義貞

頼朝ごあひ善からず 頼朝と、あまりなか  
がよくなかつた 〔郷里〕〔婚を通じて〕 しりげん 〔名望〕 ひま

〔心を収め〕 その心をとり  
いれること 〔源氏の昔〕 頼朝、義家が、東國に  
名望ありし昔のこと 〔再興〕 オキコ 〔陷〕 オチイ 〔護良親王〕 護良親王

皇第三の皇子、大  
塔宮と申したり 〔護〕 サシ  
いひ 〔疑ひ〕 ウタガ  
ハシ 〔時行〕 兵五萬を率ひて  
鎌倉を攻む 〔足柄〕 相模の  
地名 〔西上〕 西に向つて  
上る 〔院〕 院

宣を請ひ 願の名をさけるため  
のけいりやくなり 〔募り〕 あやういと  
いふことな 〔六條忠顯〕 天皇に從ひて、  
岐にまで行きし人



新田氏と足利氏

新田氏……義重頼朝の不和、  
足利氏……足利氏との婚姻、  
尊氏兼ての大望、  
關東の政權足利氏に歸す、  
護良親王と尊氏、  
北條時行の亂、

### 足利尊氏の反

尊氏反して西上す義貞の軍利あらず、

京都の戰

尊氏西國に走る尊氏院宣を得

多々良濱の戰

赤松則村の反

諸國の軍應ず、

尊氏兵を擧げて東上す湊川の戰

尊氏京都に入る

### 第三 南北兩朝の分立

皇統の兩分後醍醐天皇は、大覺寺統  
光嚴上皇は、持明院統

時勢のやみがたきを見てその時のいきほひいかん  
ともしよのないのを見

て「おぼしめす旨お考へなされる  
所があつて

「幽こもりしおしこ」  
「催もよほにおほ應こたじてこたへてこたへ」  
「分ぶん屬りやくしわかれ

「宮方みやかた南みなみ」  
「武家方ぶけかた北きた」  
「海路かいろ」  
「船ふねに乗のりつ

「暴風ぼうふう」  
「四散しさん」  
「ちりちり、ばらばら  
ばらになること」

「叡慮えいりょの如ごとくな

らず天皇のおぼしめし  
のよーにならず

「遺詔いひおきの  
みことこのり」  
「行宮かりの、  
御殿」  
「賀名生かみなま  
にあり」  
「ゆだねせまか  
「執とつ

事こと不和ふわ」  
「なかがわ  
るくなる」

「黨かた  
のものがた」  
「追討おひ  
つ」  
「征西將軍せいせい  
しん」  
「幕府の内亂まくらふ  
のうらん」  
「尊氏兄弟の争たがひ」  
「柱はしら」

石いし切きなるもの大  
切なるもの

「後龜山天皇後村上天  
皇の御子

尊氏光明天皇を立つ、

尊氏和を請ふ

諸臣を四方にやらる

後醍醐天皇

天皇京都に還幸



### 南北朝分立

尊氏天皇を幽す

天皇吉野に幸す

南北朝の兩立

新田義貞

足利高經との戦争

藤島に戦死す

北畠父子：顯家の西上、親房奥羽に向ふ

楠木正行吉野を護る

四條畷の戦

諸國の官方

天皇難を賀名生に避く

諸國の官方

尊氏京都に幕府を開く

尊氏兄弟の不和

直義南朝に降る

幕府こそその内亂

兄弟和睦

尊氏南朝に降る

直義亡さる

北朝に神器なし

再び京都を恢復す

新田、北畠、菊池の勤王

北畠親房の薨去

南朝勢衰ふ

南朝皇位の争

地方の官方漸く亡ぶ

義満將軍となる

細川頼之の功蹟

大内義弘の盡力

南北朝合一となる

兩朝合一



### 第四 室町幕府の盛時と足利義満

**基礎** キソ **強大** キョウダイ 領地大きく 兵つよし **嚴重** オンシヤウ **威信** ウチノミチ 威光と信用 **侍所** シヤウジヤウ **職制** シヤクセツ 役人のきまり **關東管領** カントカンリヤウ

一般の事を取扱ふ重い役で足利の一族をもてこれに任ず **九州探題** 九州地方一般のことと及外寇にそなふ **華美** カビ はでな、うつくしい **邸宅** テイタク **入臣** イニヤク

**の極に達し** キョクニタクシ 人臣として、上ることのできる一匹ん上にいたる **三層の金閣** サンガイノカウカク 三がいにたつてをうって、柱床など金でぬつたたても **奢侈** シヤウジ おと

**出入の儀衛** シュツニュウノギエイ ではいりの供行列の儀式 **名分** ナウブン 君臣の分限 **尊號** ソウゴウ 尊き名 **弘安の役** コウアンノヤク 元兵の來をいふ **私に** シニ 官より

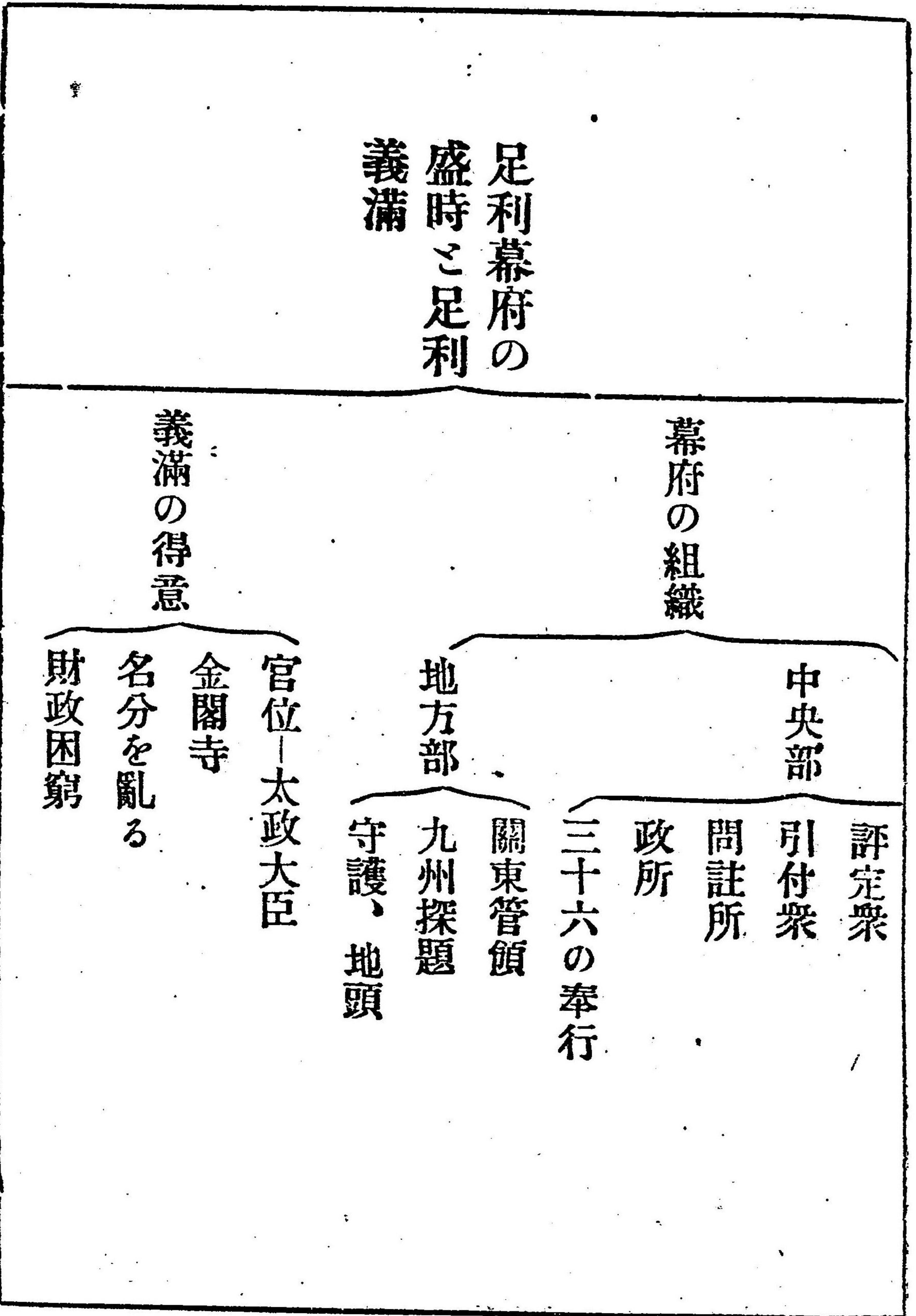
しなくじぶんがかつてに **絶つ** ケツツ やめにする **中絶** チュウケツ しばらくの間やめになつた **掠むる** ラクムル 物品を奪ひとる **禁絶** キンケツ 禁して、なく

#### 幕府の基礎

尊氏の策略  
諸將の強大  
戦亂  
義満に至りて整ふ

三管領  
四職

### 足利幕府の盛時と足利義満





弘安役後、元との交通

義満金を得んため外交  
國体をはづかしむ、  
貿易の利益

義持の絶交

倭寇

第五 關東管領

鎮め「疎遠」公方「嗣」  
「快し」不可なるを諫め  
「遺子」

「古河に對せり」古河公方の向ふを  
「山内」上杉憲忠  
「扇谷」上杉顯房  
「北條氏」北條早

基氏より代々管領となる

上杉氏の補佐

幕府との疎遠

基氏こその子孫

關東管領

關東管領の滅亡

鎌倉の勢力膨脹

將軍義持—義教…持氏

持氏—上杉憲實

鎌倉公方の滅亡

成氏—憲忠

古河公方—成氏

堀越公方—政知

山内上杉、扇谷上杉

北條早雲の勃興

第六 室町幕府の滅亡

隆盛の極盛にあつた「衰連おとろへ」  
「威嚴を示し」  
「驕り」  
「還俗」  
「實子」  
「相續」  
「紛議」  
「兵火」  
「荒野」  
「慘狀」

のしが、又通幣  
の人とせること  
「實子」ほんとの子  
「相續」つぎつぎ  
「紛議」はまじ  
「兵火」戦争のた  
「荒野」アレン  
「慘狀」つづた

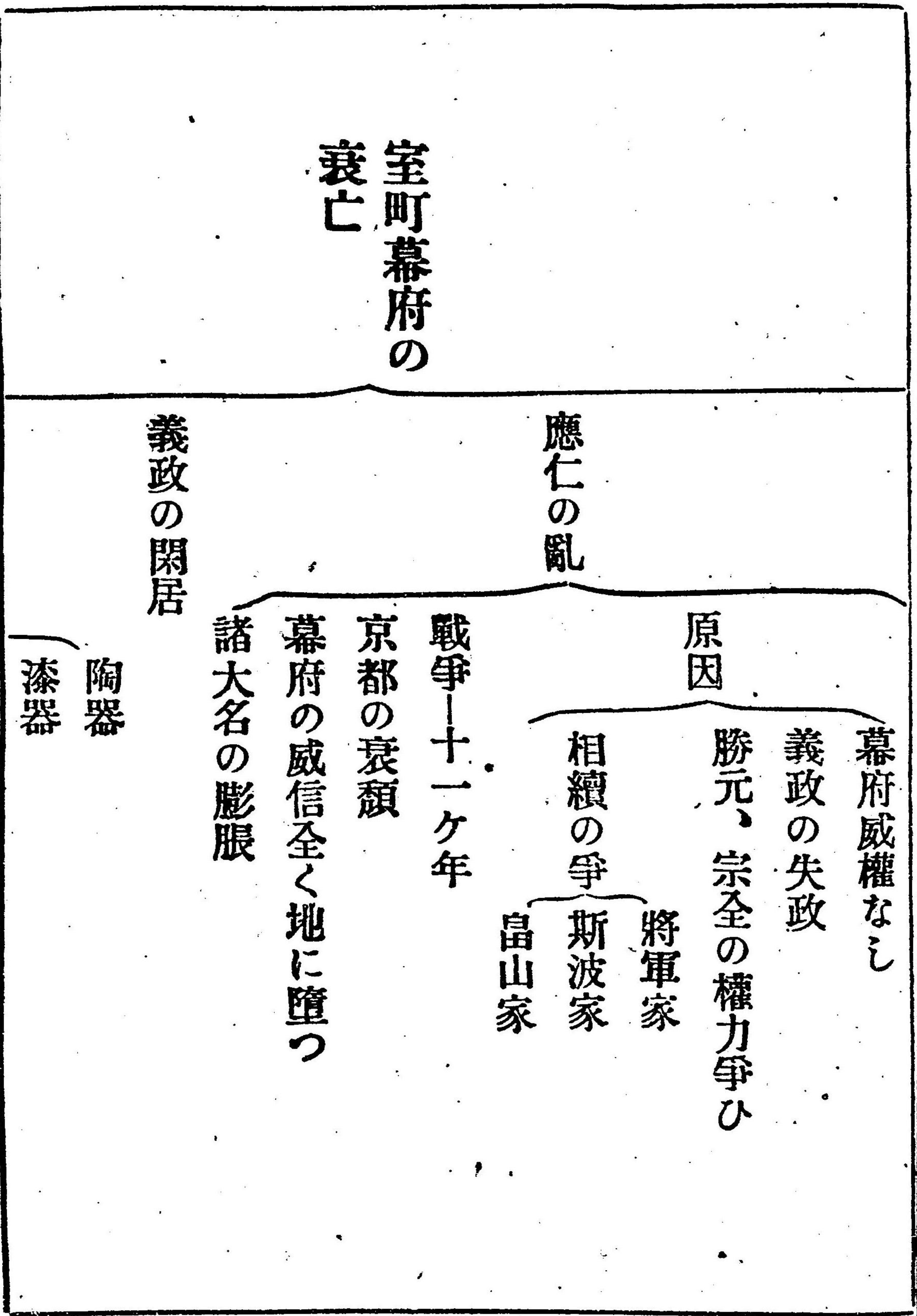


〔世の疲弊〕 世の中の人々が、  
 〔銀閣〕 金閣になぞらへ、  
 〔閑居〕 世の中の事にとんちやうせずしづかにすまふこと  
 〔茶〕 の湯 客を招き、茶をたて、  
 〔書畫〕 名人の書いた字や畫  
 〔古器物〕 昔の珍しき器物  
 〔宴遊〕 〔茶器〕 茶の湯に用ひるもの  
 〔愛玩〕 愛し、もて  
 〔薛金〕 漆塗の上に、金銀にて、種々のもよゝを書いたもの  
 〔精巧〕 〔明兆〕 東福寺の僧  
 〔雪舟〕 備中の僧  
 〔風流〕 〔地に落ちたり〕 なくなつてしまつた  
 〔權臣〕 權力のつよい臣  
 〔家臣〕 その家の臣  
 〔全權〕 けんり  
 〔擅〕 〔威名〕 を忌みて  
 〔宮垣〕 皇居四方のまき  
 〔燈火〕 しび  
 〔衰微〕 おそろへよわる  
 〔臨時の儀式〕 年中、必ず行はれる儀より外に、時にのぞんで行はれる儀式  
 〔御〕 踐祚 即位をつか  
 〔獻金〕 金をけん  
 〔恒例の儀式〕 年々、必ずままつて行はれる儀式  
 〔廢絶〕 やめになつて  
 〔修〕 理 御料 御つかひになる米や金など  
 〔舊觀に復したり〕 昔のありさまにまどつた  
 〔足利氏徳を失ふ〕  
 〔地方豪族の發達〕  
 〔義教の威嚴〕  
 〔赤松滿祐の反逆〕

幕府の衰運

- 足利氏徳を失ふ、
- 地方豪族の發達、
- 義教の威嚴
- 赤松滿祐の反逆

室町幕府の衰亡





東山時代の  
美術と工藝  
明兆  
繪畫 雪舟

義政以後の將軍—只名を有するのみ

後土御門天皇

皇室疲弊の極—後柏原天皇

後奈良天皇

### 第七 戰國時代

割據 おの／＼領地をまもり 兵をたくはへてをる 「雄を競ひ 争ふ」 「部將 一部の大將」 「主家を倒し 主人の家を亡す」 「強

者 もの」 「弱者 よわい」 「舊家 ふるい家がら」 「虛名 名ばかりで、つとむの権力をなきこと」 「略取 せむ」 「長尾氏 上杉

の—」 「南部 晴」 「秋田 季」 「伊達 晴」 「今川氏 元」 「武田氏 信」 「上杉氏 上杉憲政の子分となり、長尾をあらため

て上杉謙信 と名のれり」 「削られ 削る」 「勝敗容易に決せざりき かちまけがたや、すぐつかなんだ」 「つごに大志を抱 抱

きて はやくより、天皇を奉じて 天下を定めんと志をもつて 「その機やうやく熟せしが やうやく、よいじぶんとなつたが」 「連合

軍 遠江の、波松の北方にあり」 「自立 自立」 「進取の勢 進んでせめとる勢」 「一向宗の一揆 一向宗の信者一揆のそいご」 「分裂 分裂」 「細

川 清」 「畠山 政」 「三好氏 長」 「松永 久」 「京極氏 高」 「浅井 長」 「北畠 是」 「尼子 晴」 「赤

松 則」 「宇喜多 直」 「藤巻 家」 「陶晴賢 賢」 「長曾我部 元」 「少貳氏 貞」 「來航 航」 「南蠻

人 築城法 城をきつづく法」 「攻守の術 攻める法 守る法」 「猛烈 大それたこと

#### 關東地方

古河、堀越兩公方の衰弱  
北條早雲—氏綱—氏康

#### 奥羽地方

南部氏、秋田氏、  
伊達氏、

#### 中部地方

今川氏、上杉氏、  
武田氏、織田氏、  
朝倉氏、



### 戰國時代

桶狹間の戦、川中島の戦

御方原の戦、長篠の戦

三好氏、松永氏、

近畿地方 京極氏、淺井氏、

北畠氏、

尼子氏、赤松氏

中國地方 大内氏、宇喜多氏

毛利氏

細川氏、三好氏、

四國地方 長曾我部氏

少貳氏、龍造寺氏、

九州地方 大友氏、島津氏、

兵法、武藝進歩し學問すたる、

兵法武藝の進歩 鐵砲の傳來

築城法の改良

### 第八 織田信長の功業

家名カメイ家の名望カメイ 〔四隣シリン四方の國々シリン〕 〔正親町天皇オホキミマサノヲ〕 〔密勅ヒソキツ内々に下されしものり〕 〔任務ニョウム〕 〔齋藤氏サイトウ〕

信長の妻の來り家キミサト 〔結びムスびて同盟ドウメイして〕 〔後顧の憂を絶タてり他へ出イてあそを、攻められよし〕 〔淺井長政アサノナガマサ〕

信長の妹のむこイモ 〔抗アゲせりひいたか〕 〔僧徒ソウトずら〕 〔横暴ヨウボウわがまふるまひ〕 〔急に襲ウラひて〕 〔信長の軍の先鋒として發し、丹波に至りには〕

かに反サカきて、京都にかへり歸カエへり

信秀家を興オモす

今川義元を斬キる

密勅を受ウケく



### 織田信長の功業

#### 近畿平定

- 京都に入る
- 伊勢を従ふ
- 延暦寺を焼く
- 淺井、朝倉を亡す
- 安土に城を築く
- 長島の一揆
- 石山の一揆

武田氏を亡す—家康との同盟

毛利氏征伐

光秀信長を恨む

光秀の叛—信長父子の援兵

本能寺の變

### 第九 豊臣秀吉の海内統一

備中にありて

高松城を攻めたり

〔京都の變〕

光秀の反

〔秘してかくして〕

〔山崎〕

山城の西南、攝津に近き所

〔後〕

事を議し

〔秀信〕

〔遺領〕

〔賤岳〕

〔遺業〕

〔不〕

利

〔講ぜり〕

〔北條氏政〕

〔聚樂第〕

〔結構壯麗〕

つくりかたが、大ききで、りつぱ

門跡

〔誓はしめ〕

〔荒廢〕

〔檢して〕

〔田制〕

田地に就ての規則

太守

〔服従を促し〕

〔先導〕

〔在外〕

〔講和使〕

和を請ふたゆに來りし

欺かれ

〔銳鋒〕

するどいほこさき

秀吉毛利氏と和す

山崎合戦

織田氏諸將の會議

賤ヶ岳の合戦

信孝の自殺

信長の遺業  
秀吉に歸す



# 豊臣秀吉の 海内統一

〔信雄秀吉の不和〕

四國平定、北陸平定

諸國平定、九州平定、關東平定

奥羽降附

豊臣の姓を賜ふ

大阪城を築く

## 内治の業

聚樂第行幸

京都を修理す

田制を整ふ

ルソン島の交渉

臺灣島の交渉

朝鮮との交渉

朝鮮征伐二回

## 外國關係

## 第十 江戸幕府の創立

舊領カキコト領地マヘの

〔太田道灌〕

〔規模〕

〔繁盛〕

〔威望〕

〔徳望〕

〔輔佐〕

〔味〕

〔豊臣氏のために不利ならんことを慮り〕

家康の威望高くなりて、天下の權おのづからこれに移り、豊臣氏の天下も終に失はんかといふことを

を心配

〔會津〕

〔兵備を修め〕

〔虚に乗じて〕

〔盟主〕

〔削減〕

〔没収〕

〔加増〕

方〔激戦〕

〔西軍〕

〔叛應〕

〔削減〕

〔没収〕

〔加増〕

すや

〔轉封〕

〔親藩〕

〔譜代〕

〔配置〕

〔外様の大名〕

徳川氏に服

〔僻遠〕

〔恩顧〕

〔憚り〕

〔方廣寺〕

るが、家康は、秀頼にすゝめ

て、これを再建せしめたり

〔鐘の銘〕

〔呪咀〕

〔難詰〕

〔所行〕

する〔事を用ひて〕

〔一致せざりき〕

〔約に違ひ〕

## 信長時代の家康

江戸城にうつる



江戸幕府の創立

秀吉時代の家康

江戸城の沿革

五奉行、五大老

前田利家

豊臣秀頼

石田三成

上杉景勝の舉動

三成等の舉兵

東西兩軍の諸將

小早川秀秋の反應

封地の削減、沒收、轉封

親藩、譜代、外様、

諸侯配置の考案

大阪の勢力

豊臣氏滅亡

鐘の銘事件

大阪冬の陣

大阪夏の陣



# 小學地理 四

## 第一 總論

水陸の兩界

水の世界と陸の世界と

〔空氣をもつてこれを包む

空氣は、海面より二十四五里の高さまであり

〕趣を異

にし

〔ヒマラヤ山頂

ヒマラヤ山のいたゞき エベレスト峰をいふ

〕エルサレム

小亞細亞のバネ スチナにあり

〕近

傍

〔死海 その水は、鹽分を多くふくみ、人の体もしづまず、魚類は、一も生活する能はずといふ

〕海面下

海水の面よりした

〕低所

ひくい

〕高低

い所

〔高低の變化急激ならざれども

高い所と低い所とのかはりぬがあまり、にはおにきびしくない

〕深淺の差

い所

るの差

〔ニュージールランドの東北

深さ三萬二千四百尺に達す

〕北海道の東南

メスカロラ海床といふ、深さ三萬八千一

の最も深き所なり

〔内外 それより以上、或はそれより以下といふ意

〕淺所の廣くあひ連る所

大西洋の中央、南北一帯の淺き所、太平洋の

東南方の

淺い海

〔分布 わかれ、ちつ

〕島嶼

多くの島の集つたものないふ

〕氣界の現象

空氣のはたらく種々のありさま

〕複雑 大そ

んでこみい

〕氣温の寒暖

空氣中の温度のさむさ、あつさ

〕生育する生物

いき、そだつてをる動物植物

〕適應して

にかたよふよ、

〕各地特有のもの

各の地に、その地方だけあつて、その他の地方にはないもの

〕密接の關係

はなれることのできぬ關係



〔文野強弱 文明なるを、野蠻なるを〕 〔外界の影響 土地、海洋、氣候などの影響〕 〔差別 天然と人事との〕 〔天然と人事との〕 〔補 習 十分に習ふこと〕

## 第二 山脈火山附地震、温泉、

熱き 〔火球 火のたまご〕 〔冷え 地球の、外がわの〕 〔地殻 地球の、外がわの〕 〔現今 いま〕 〔孤立 たゞ、一つはなれ〕 〔山脈 山が、ながく、〕 〔弱所 よほい〕 〔熔岩 岩石の、どろどろに〕 〔迸り出で ぶきだ〕 〔變化を與ふる 形をかへる〕 〔過去 すぎさつた〕 〔無數の歲月 何年とも、かすのわが、〕 〔峰を削り 山の高い所を削る〕 〔山岳 多くの山〕 〔高峰 高い〕 〔御岳 信濃飛騨の境にあり、〕 〔乗鞍岳 御岳の北にあり、高〕 〔赤石山 信濃、駿河の境にあり 二條の並行せる山脈 二すたの、なり 中國の中央を東西に走る 中國山脈 四國を経て九州にいたる 四國山脈 奥羽の中央を過ぎ 奥羽山脈 〔その西を走り 田羽山脈 〔その東にわたる 北上山脈 〔水面以下に没す

る 海の水より下に 〔瀬戸内海 山陽道、四國、九州の間の海 〔三方より 紀淡海峡、豊後海峡、島根海峡の三方より 〔分離 ばなれる〕 〔縦に走り 蝦夷山系 〔横にわたれる山脈 帯火山脈 〔新高山 高さ一萬四千三百尺あり 〔二列島 二の列をなしてなる島 〔地體の骨組 土地の、なりたて 〔バミル高原 支那の西南、世界の、所 〔ヒマラヤ山 高さ二萬九千二百尺 〔最高峰 カウリサンガ 〔ベーリング海峡 アツヤの東北端と、北 〔アルプ山脈 スイスとイタリヤとの 〔ロツキ 北アメリカの西 〔アンデス 南アメリカの西 〔世界最長の山脈 アンデス山脈は、全長四千五百哩に 〔通例 〔頂上 〔火山の口 〔裾野 山の麓、長く 〔淺間山 信濃上野の 〔阿蘇山 肥後 〔噴出 だす 〔マツカリ岳 肥後 〔その作用を 休止せる 噴火のはたらきを、やすんでをる 〔岩石の性質 〔八岳 信濃、甲斐の 〔整ひ 〔火山の形状す ばちをふせたよりに、四 〔霧山島 日向の西南大隅 〔開聞岳 薩摩の南 〔那須 下野の東北、磐城 〔二周するの趣あり ひとめぐりしてなる 〔洋中の諸島 太平洋中 〔アイスランド ノルウェ 〔西印度諸島 南北アメリカ洲の間 〔ベスピアス イタリヤ 〔エトナ 地中海中のシ



リ「古來コライ」ひらかい「地熱チネツ」地球内部「涌きウツ」野上「伊香保イカホ」箱根「熱海ネツミ」豆「山中ヤマナカ」有  
 馬ウマ「道後ミチゴ」後「別府ベツフ」後「時期ジキ」と「熱湯ネツトウ」いゆつ「アイスランドアイスランド」にあるもの  
に吹き「すこぶる壯觀ソウカンなり」大なり、大きなる、さ「火山カクタンの活動カクドウ」火山の噴出  
上心「災害サイガイを及ぼす」わざわひ  
烈「大なりはげ」災害「を及ぼす」わざわひ

(一) 山脈及火山

地球の形成……………地殻及其その内部

山及山脈、火山……………その成立、普通の山と火山との差異

地形の變化……………原因Ⅱ内部と外部

(二) 我が國の山脈の成生及主なる山脈

本州四國九州の山脈と本州、四國、九州島の成立、

北海道の山脈と北海道島の成立、

臺灣の山脈と臺灣島の成立、

(三) 世界の主なる山脈

琉球列島、小笠原列島、千島列島と山脈との關係、

アジアの山脈……………バミル高原、ヒマラヤ山脈、崑崙山脈、天山山脈、アルタイ山脈

ヨーロッパの山脈……………アルプ山脈、アペニン山脈、カルパチヤ山脈、スカンチナヒヤ山脈、ウラル山脈、ピレネー山脈

アメリカの山脈……………ロッキーマウンテン山脈、アンデス山脈

アフリカの山脈……………アトラス山脈、兩海岸の山脈、

オーストラリアの山脈……………東岸と西岸

(四) 火山の分布

日本の主なる火山脈……………那須、富士、阿蘇、霧島、

世界の主なる火山脈……………太平洋沿岸、地中海沿岸、

(五) 温泉及其その分布

温泉の湧き出る理、間歇泉、火山と温泉との關係



(六)地震

地震の源因、火山と地震との關係、

第三 河流 湖沼

河流〔ゆく〕流れて行く間に〔四近の水〕その近べん四方の水〔河底〕その河の底の〔侵蝕〕少しづつか〔砂礫〕少しづつか小石〔泥土〕ろ沈積しづみか〔附近〕フキ〔ミシシッピ河〕北アメリカの合衆國にあり、長さ千六百三十里、その流域二十萬三千方里及ぶ〔信濃川〕長さ百里〔ナイル河〕アフリカ洲のエンプトにあり、長さ千四百九十里〔アマゾン河〕世界第一の大河にて、南アメリカのブラジルにあり、長さ千三百八十里、その流域四十四萬六千方里に及ぶ〔揚子江〕支那にあり、長さ一千三百二十里〔黒龍江〕支那より、シベリヤに流れ入る、長さ凡一千二百二十里あり〔コンゴ河〕アフリカ洲のコンゴ國にあり、長さ二千二十里〔ガンガ河〕印度にあり、長さ七百五十里〔チズリス、ユーフラト〕アツヤトルコにあり、二河合してヘル、長さ五百二十里餘〔ダニユーブ〕オーストリア、ホンガリより流れ、ラインにあり、長さ二百三十里〔急流〕きび〔舟航の便を缺く〕舟をやる便利にかけざる〔水力を利用して水の流れる力をうまく使つて〕〔機械運轉〕機械を動かすもとの力〔北上川〕六十〔阿武隈川〕三十〔利根川〕七十〔木曾川〕五十〔淀川〕二十〔吉野川〕七十〔築後川〕七十〔以上日本の河流は、灌漑田畑に水を注ぎ入れること〕〔運輸〕人や、荷物を運ぶこと〔肥沃〕穀類をふか〔畜畜業〕ふか〔居を運びて〕住居する所をえらんで〔水産〕魚類、貝類等水中よりの産物〔天津浜〕〔松江出〕〔塩分〕〔裏海〕アツヤ、ヨーロッパの境にあり〔面積我が國よりはやゝ大なり〕裏海の面積は二萬七千四百二十平方里〔死海〕面積五十平方里〔淡水湖〕水分を含む湖〔スベリオル湖〕アメリカ合衆國にあり、面積五萬五千平方里〔ビクトリアヤ〕アフリカにあり、面積四千二百八十八平方里餘〔ヒューロン〕アメリカ合衆國にあり、面積三千八百三十平方里〔バイカル〕シベリヤにあり、面積二百三十平方里〔琵琶湖〕面積三千八百三十平方里〔ミシガン〕ヒューロン湖の四南にあり、面積三千六百三十平方里〔八郎瀉〕羽後にあり、面積十三里〔震浦〕常陸にあり、面積十三里〔入郎瀉〕羽後にあり、面積十三里〔猫苗代湖〕岩代にあり、面積十七里餘〔濱名湖〕遠江にあり、面積十三里〔矢道湖〕出雲にあり、面積十三里〔印旛沼〕下總にあり、面積十二里〔千和田湖〕陸奥にあり、面積十里〔諏訪湖〕信濃にあり、面積四里〔蘆湖〕新根山中にあり、面積四里〔中禪寺湖〕日光山中にあり、面積八里〔山中湖〕甲斐の東南隅にあり、面積八里〔舊火口〕昔噴火してをつた口

(一)河流

川一里



川の作用………侵蝕、運搬及堆積

世界の大河――江、コンゴ、黄河、ガンガ、チグリス、ユーフラト、ダニユープ、ライン、エニセイ、ボルガ

日本の大河――信濃川、石狩川、北上川、阿武隈川、利根川、木曾川、淀川、吉野川、筑後川、

河に沿へる大都會  
ロンドン、パリ、ベルリン、ウイーン、モスクー、カルカッタ、漢口、東京、大阪、京都、名古屋、廣島、

河と人生との關係  
灌漑、動力、交通、  
都邑、風景、水産、  
利益

汎濫………害惡

(二)湖沼

その成因、鹹湖と淡水湖、人生との關係、

日本の主なる湖水  
琵琶湖、霞浦、八郎瀉、猪苗代湖、濱名湖、矢道湖、印旛沼、十和田湖、諏訪湖、サルマ沼、蘆湖、中禪寺湖、山中湖、

世界の大湖  
カスピ海、死海、スベリオル、ビクトリヤ、ヒューロン、ミシガン、バイカル、

第四 海岸

境界線ケイカイセンのせんせん 海岸線カイガンセン 一定不變のものにあらずいつつも、きちんとして、きまつて [新]

地チ 隆起リョウキ 陥没カンボツ 緩漫カンマン 昇降ショウカウ 砂濱サヒ

地チが高くなり、又また 形成ケイセイ 泥砂ディサの沈積作用チンセキサウヨウ 砂濱サヒは低くなること



まは「絶壁」きりたてたよな「概して」大体からいへ「屈曲」ゆるがんで「出入に富める所」は  
 め、たくさ「運輸の連絡を容易ならしめ」ものを、はこぶに、この地と彼の地と、又彼の  
 んにある所「種々の事物に接し」多く他國の人につきあふか「増進」しめし、す、  
 宜ふべりとい「種々の事務の一部分」を、專門「野蠻の域」野蠻人の形に「輻湊して」四方から、よ  
 種々の仕事の一部分を、專門「野蠻の域」野蠻人の形に「輻湊して」四方から、よ「貨物の集散地」  
 ち、受もつて、そののみするこ「繁榮」(ニユーヨーク、アメリカ「ボンベイ」印「マルセイユ」  
 種々の品物が、集つたり、ちらかつたりする土地「繁榮」(ニユーヨーク、アメリカ「ボンベイ」印「マルセイユ」  
 フラ「開港後」外國との貿易港

(一) 海岸線の變動

地球外部よりの變動  
地球内部よりの變動

(二) 海岸線の形状

交通運輸の關係  
文明進歩の關係

(三) 海岸と大都會

ニユーヨーク、ボンベイ、マルセイユ、  
上海、横濱、神戸、長崎、

(四) 各大陸の海岸線

ヨーロッパ	大陸二萬六千九百五十里	割合	四、五
アジア	北アメリカ	一萬八千七百五十里	四、九
	南アメリカ	七千八百八十里	二、〇
	アフリカ	九千五百五十里	一、八
	オーストラリア	四千八百八十里	二、〇
本州		千九百五十二里	五、八
四國		四百五十一里	五、五
九州		八百六十一里	一〇、二
北海道		五百八十三里	二、五
臺灣		二百九十九里	二、五

(五) 日本の海岸線

第五 海流附潮汐

暖流

流れてをる海水が、普通  
の海水より温きもの

寒流

流れてをる海水が、普通  
の海水よりつめたきもの

黒潮

小笠原島の邊にて、最も  
明かなり、又黒潮川といふ

割合



〔親潮〕 黒潮にくらべると、その温度の差五度より八度にいたる

〔リマン海流〕 樺太島の西を流るゝもの

〔新月〕 三日月の月 〔満月〕 月が、まんまるになつた時、或は十五日か、或は十六日なり

〔干満〕 干は、潮の引いた時、満は、潮の満ちた時をいふ

〔有明海〕 肥前、肥後、豊前、豊後、日向の諸島を流るゝもの

〔下關海流〕 一里間に五里の速さにて流るゝことあり

原因……………温度の差、風、

種類……………暖流、寒流、

影響……………氣候、産物、航海、

日本海流…アメリカへの航海、日本海方面の氣候

千島海流…産物、滿州朝鮮の氣候

メキシコ灣流…ヨーロッパの氣候

(二) 潮 汐

原因……………月と太陽との引力

種類……………高潮、低潮、

影響……………航海

第六 氣 候

現象 ありはれる 〔場所〕 〔月を積み年を重ねて〕 何年の間も 〔観測〕 は、何年か

すなり 〔各時季に應じて〕 その時々々の時 候によりて 〔ほ〕 一定したる おほかた同様より 〔雨量〕 雨の

量分 〔兩極地方〕 地球の、南北の 〔増加〕 〔緯度の高低〕 赤道を零度とし、南北に進むに従ひ十度、

となる 〔寒帯〕 温帯、熱帯の別 赤道より、北へ二十三度半の所までを熱帯といひ、二十三度半より、

といふ 〔氣温〕 空氣の温度 〔減少〕 〔盛夏の頃〕 夏の、あつと 〔縮入〕 〔キ

リマヌジャロ山〕 アフリカ 〔白雪を戴く〕 水陸の分布 水と、陸地との、 〔流動〕 なが



〔妨ぐ〕〔貿易風〕常に一定の方向に吹いて来る故、この風を利用 〔晝は海より陸に向ひ

随は、水ウリも、早く熱せらる、故、空気も温まりて上昇し、〔夜は陸より海に向ふ 陸が早く冷え

る故に、その後を補ふために、海上から、陸に向つて吹いて来る 〔氣温を調和し 温度をさへ、のへ

〔海洋性氣候 海陸風の影響 〔反するを たいなを 〔大陸性氣候 海陸風の影響 〔冬季も

のき 〔大陸より來れる 吹いて來る 〔寒冷なる つめたい 〔旭川 石 〔イラン地方

ベルシヤ、アフガニスタン、 〔交代の時期 のとき 〔暴風 かい 二百十日 立春の日より、

大抵九月のはじめにあたる、この 〔災害 わい 〔あたかも 水滴 水のし 〔降雨 あり 〔濕

氣りしめ 〔多量の雨を降し 雨をふらす 〔快晴 はれた 〔夏季 〔雪に名あらしむ 大

といふ名を出 〔梅雨 といふ 〔初夏 夏のはじり 〔襲來 おそひ 〔濃飛高原 美濃飛驒の 〔製塩 海

より遠を 〔理由 ありの 〔然るものにして さうなる 〔偶然に ふらふらに 〔氣象臺 氣象の

天体などを 〔測候所 氣象臺の、まか 〔豫報 まへもつて知 〔警報 よいじんせよと

観測する所 せの小さいもの 〔豫報 まへもつて知 〔警報 よいじんせよと

(一) 空氣の温度

緯度の高低と氣温……五帶……土地傾斜の方向

地形と氣温……土地の高低……水陸の分布

海流の影響、 風向と氣温、

(二) 風、

貿易風、季候風、海陸風 海洋性氣候 二百十日 大陸性氣候

日本の氣候 最高温度の地……臺灣の恒春 二十四度五分 最低温度の地……北海道十勝 四度九分

(三) 雨

多少の原因…… 緯度の高低、海陸の分布、風の方向、 山岳の方向、



世界多雨の地方……………印度  
世界寡雨の地方……………ザルラ、アラビヤの沙漠地方

氣象觀測の區 各地名は、測候所のある所なり、

第一區 (南西諸島)

恒春、臺東、臺南、澎湖島、  
臺中、臺北、石垣島、那覇、  
大島、

第二區 (西海道及南海道の南方地方)

佐多岬、都井岬、鹿兒島、宮崎、  
熊本、足摺、高知、室戸岬、  
徳島、和歌山、日ノ岬、潮岬、

第三區 (瀬戸内海地方)

大分、松山、多度津、廣島、  
吳、味野、岡山、神戸、  
大阪、京都、八木、

第四區 (九州北部及山陰道地方)

大瀬岬、長崎、佐世保、佐賀  
福岡、壹岐崎、嚴原、釜山、  
下ノ關、濱田、境、西郷、  
間人、舞鶴、

第五區 (東海道地方)

波切、津、岐阜、名古屋、  
濱松、長津呂、沼津、横須賀、  
横濱、東京、熊谷、布良、



銚子、

第六區 (東山道西部地方)

高山、飯田、松本、長野、

甲府、前橋、宇都宮、福島、

第七區 (北陸道地方)

彦根、福井、金澤、輪島、

伏木、小木、新潟、山形、

秋田、

第八區 (東山道東部地方)

水戸、金山、金華山、右ノ巻、

宮古、

第九區 (北海道西部地方)

釧路、函館、

青森、龍飛岬、

第十區 (北海道東部地方)

釧路、網走、

宗谷、十勝、

根室、紗那、

第七 生 物

椰子樹

熱帯の地に生ずる木にて、幹はまっすぐのび、枝なく、しゆろに似てをる、夏になれば、長さ八九寸の、さるい實をむすぶ、その内は食用となり、殻は器物となり、葉は屋根をふき、根は薬となり、皮は繩とし、

花のくより、酒をつくることを得、實に、功用多き木なり

芭蕉

熱帯地方の大本にて、大なるものは、まわり數十尺と、枝より根をおろし、地中に入りこむ

齒

種類多くあり、わらび、ぜんまい、喬木 高さ数丈にも、大きくなる木、美味なる果實、味のよろし、耕作

の道をしらざる

食物を作つて食ふ、生を保つ、いのちをつ、象、犀、獅子、駝鳥、ア

リカ、アフリカ地方に産す、大きなものは高さ七八尺あり、鱈魚 印度、アフリカ地方の河中に産す、大なるは二



して力強し、口も深くさげ、**〔巨大〕** 大きなこと **〔猛悪〕** わるいもの **〔極地〕** 北極地方 **〔短小〕** みぢか  
人及畜類を害すること多し

**〔灌木〕** 大きにならぬ性質の木 **〔稀に〕** **〔白熊〕** **〔馴鹿〕** シベリア地方などに多し、鹿よりは大きく、大なる、枝のある角あり、氷の上を、それを引かしむるに用ふ

**〔海豹〕** 寒帯地方の海中に産す、長さ一丈にも及び、頭は犬の如く、前足は短く、後足は尾の如し、全身白く、黒きまだらあり、その毛皮には光澤あり、器具、又はしきものとして、ちんちよりなり **〔氷海〕**

氷の大きなかたまりが、 **〔雪野〕** 雪のふりつらつてをる原野 **〔質すべきもの〕** ほめて、見ると質の味ふべきもの **〔家畜〕** 人に飼はれるもの **〔飼養〕** かまへること **〔同様の事實〕** おなじこと **〔存す〕** あること **〔海洋〕**

のたために、その移住を制限せられ 海があるために、わたつて行くことができます。 **〔駱駝〕**

**〔虎〕** **〔新世界〕** アメリカ洲のことなり **〔びゅーま〕** 虎の種類なり **〔じやつがー〕** 虎の種類にて、アメリカにあり **〔ある〕**

**〔海狸〕** その形よく狸に似て、尾のさきふとし、その齒するどく、大木を **〔かんばん〕** ふくろねづみといふ、身の丈け四五尺、前足短く、後足長く、腹にふくろありて、子をその中に入れて、早く

は、その中に住む、ことに、敵の攻撃を防ぐために、巢は水中につくる、又、驚くべきは水 **〔こんごる鳥〕**

のひるのを防ぐために、河中にせきを作りその長さものは、二三百尺にも及び、そのあり **〔鴨嘴獸〕** 小さき獸なり、嘴ひらたく、鴨に似たり、河の中にすみ、指の間にはみづかきあり

一萬尺以上の所に住む、といふ **〔かんばん〕** 足長く、腹にふくろありて、子をその中に入れて、早く

走る **〔ばおばぶ樹〕** 桐の種類に屬し、大なるものは、高さ二十丈以上に及び、皮は細す **〔ゆーかり樹〕**

高さ四百尺に及び、木のあり、材木は堅く、水にくされず、虫に食はれず **〔傳播〕** つたはり、ひ **〔主要食品〕**

船材、まくら木などによりし、温氣を吸ひ、衛生上有益なる木なり **〔米穀〕** 米の **〔つごに〕** いふ意 **〔變化に富み〕** 變化がたぐさ **〔繁茂〕** よくしげ **〔樟〕**

がしもの **〔米穀〕** 米の **〔つごに〕** いふ意 **〔變化に富み〕** 變化がたぐさ **〔繁茂〕** よくしげ **〔樟〕**

材木は、うすい青色を帯び、中心は、赤黒色、質堅くして、一種の香氣あり、水は **〔風景の美を添ふ〕**

堪ふる性極めて強く、船材とし、又かざり用の器具とす、その幹、枝より樟腦を取る **〔最北の地方〕** 北海道地方 **〔えぞまつ〕** 松の一種にて、材白く、質あら

材白く、やはらかにて、建築 **〔水牛〕** はぶ 大なる **〔海龜〕** しよーがくぼーといふ **〔温肺獸〕** **〔獵〕**

用とし、又器具などを製す **〔水牛〕** はぶ 大なる **〔海龜〕** しよーがくぼーといふ **〔温肺獸〕** **〔獵〕**

**〔各帯の生物の特質及種類〕**

**〔甲熱帯地方の生物〕** 種類多し、

**〔植物〕** 巨大、よく繁茂す **〔椰子、芭蕉、榕樹、羊齒類の大〕**

なるもの、美味なる果實

**〔動物〕** 巨大、猛悪、有毒、象、犀、駝鳥、鱈魚、獅子



(乙)寒帯地方の生物……………種類少し、

植物……………發育不良、不毛の地多し、

動物……………よくその地に適する状をなす……………白熊、海豹、馴鹿、

(丙)温帯地方の生物……………種類多し、

植物……………有用のもの多し……………松、杉、檜、樅、ニレ、ブナ、

米、麥、茶、桑、

動物……………有用のもの多し……………牛、馬、羊、豚、

(二)各大陸特有の生物

その理由……………海洋のため、移住制限、

(甲)動物

アジア、アフリカ……………象、駱駝、獅子、虎、犀、

アメリカ……………

ビューマ、ジャッガー、アルバカ、  
海狸、コンドル、

オーストラリヤ……………

カンガル、カモノハシ、エユミ、

(乙)植物

アフリカ……………バオバブ、

オーストラリヤ……………ユーカリ

(三)我國の生物

(甲)植物……………多種類、その理由

黒松、杉、樟、竹、柏、樺、朴、栗、桂、榲、楓、楡、樅、  
梅、杉、扁柏、羅漢松、白松、ト、松、エゾ松、

(乙)動物……………多種類、巨大のものなし、海流の影響

ハブ、海龜、温肺獸、獵虎、鰻、鯉、鮒、烏賊、鯛、鯖、鰹、



鮪、鮭、鰯、鱈、鱒、蟹、牡蠣、鮎、鯨、

(四)日本産の主要なる用材

建築用材

スギ、ヒノキ、ヒバ、マツ、モミ、ツガ、ケヤキ、  
ネヅコ、サクラ、コウヤマキ、くり、

船艦用材

ケヤキ、ヒノキ、アカガシ、シラカシ、マツ、ス  
ギ、イチヒガシ、シヒ、

鑛山用材

ヒノキ、ヒバ、カウヤマキ、マツ、クリ、スギ

鐵道用材

クリ、ヒノキ、マツ、ヒバ、シホヂ、カラマツ

柱杭用材

クリ、マツ、シロユ、スギ、

橋梁用材

ヒノキ、ケヤキ、マツ、カラマツ、クリ、

桶 材

サワラ、スギ、ヒノキ、ヒバ、モミ、キリ、

車 材

エラカシ、

建具用材

ヒノキ、スギ、モミ、サハラ、

箱 材

キリ、ヒノキ、モミ、マツ、

家具用材

キリ、ケヤキ、サクラ、シホヂ、クハ、キリ、クス、  
ホ、ノキ、クロガキ、ミネバリ、イヌグス、

曲物用材

トウヒ、シラベ、

白杵用材

マツ、ケヤキ、マツ、

屋根板材

クリ、ヒバ、ヒノキ、スギ、トウヒ、

燐寸用材

下ロヤナギ、ハコヤナギ、ヒノキ、サワグルミ、

器械用材

サクラ、ケヤキ、シラカシ、

版木用材

ツゲ、イヌツゲ、サクラ、ホ、ノキ、カツラ、

彫刻用材

ヒメコマツ、ビヤクシン、ヒノキ、サハラ。カツラ、  
ケヤキ、クス、



下駄用材 キリ、マツ、スギ、サワグルミ、ホ、ノキ、  
 箸材 スギ、イス、ウメ、サクラ、タケ、  
 樂器用材 キリ、ケンボナシ、ウメ、サクラ、  
 柄用材 シラカシ、トネリコ、  
 木地用材 ヒノキ、ヒバカツラ、ケヤキ、マキ、  
 秤用材 シラカシ、  
 櫛材 ツゲ、イヌツゲ、ミネバリ、  
 銃身用材 クルミ、  
 燃料 ナラ、クヌギ、カシ、シデ、クリ、マツ、サクラ、  
 火藥炭材 ヤナギ類、ヤマナラシ、ヤマハンノキ、  
 製紙用材 ヤマナラシ、モミ、トウヒ、  
 裁縫臺材 ホ、ノキ、イテウ、カツラ、

碁盤用材 イテウ、カヤ、

第八 人種、人口附言語

天然の障礙に勝ちしと云ふに起る、種々の「無人の境」人の居らぬところ「およそ十六億」八十五億  
 餘の「容貌」かたは「體格」から「性質」心のうま「特徴」ほかのものより、かく「數多」殘  
 餘の「類似」によつた「褐色」茶色の「大多數」大部分「優等」特殊「狭め」雜種「舌文」  
 明國「開化」割合「移されて」奴隷(どれい)として、賣買「服屬」日本に服従  
 ちがつた人種「一貫せる」他の種族のまじらざる「歸他」他の國より、日本に移つて  
 同化して「同化して」日本種族と同様に化して「善良」よい「漢人」支那より移  
 東地方 一方里の人口、東京府一萬二千五百人、神奈川縣五千七百七十七人、埼玉縣四千七百七十七人、  
 千葉縣三千八百人、茨城縣二千九百人、栃木縣二千九百人、群馬縣一千九百人あり「濃尾平野」  
 里の人口愛知縣 一方里の人口、京「大和」奈良縣一方里の人口二千六百六十人あり「大阪」大阪府の一方里の人口  
 一萬三千一百人あり「四



國九州の南部 一方里の人口高知縣は一十  
三百人、宮崎縣は九百人なり 「北海道 一方里の人  
口一百人」 「疎なり まばら  
である」 「疎密 ま  
ばら」

ちなるをみ 「大差 大きな  
ちがひ」 「使用 ソウ  
ユウ」 「世界商業上の用語 世界  
中、商業の取引  
するにちふる言語」 「範圍 ま  
く」

いふに 「上流社會 ソウ  
リウシャイカ  
イ」 「外交上の用語 國と國とのつき  
まひに用ふる語」 「殖民地 ソウ  
ミンチ  
地」 人民を移し住ませて  
その土地を開く所

(一) 人類、

(イ) 他の動物と區別すべき特徴……知識、

(ロ) 分布の區域……全地球上、

(ハ) 全世界の人口……十五億八千七百萬、

(ニ) 人種、

(1) アジヤ人種……黃色……五億人

(2) ヨーロッパ人種……白色……七億九千萬人

(3) アフリカ人種……黑色……一億五千萬人

(4) アメリカ人種……銅色……三千四百萬人

(5) 海岸島嶼人民

(ホ) 我國民の種族……アジヤ人種……日本種族

(ヘ) 我國の人口の密度及分布

人口

男 二千二百七萬四千二百四十二人

女 二千六百六十八萬九千六百十三人

合計 四千二百七十六萬三千八百五十五人 (三十一年)

三十四年には 四千五百二十二萬七千四百六十四人

一方里に付 平均一千八百人。世界平均の十一倍

密度

ベルギー……三千七百人

日本よりも密なる國 オランダ……二千五百五十人

イギリス……二千百三十人

一方里六千人以上の地方……關東地方、濃尾平野、大阪平野、



一方里五千人以上の地方

淡路  
臺灣の西海岸、九州の西北部。  
瀬戸内海沿岸地方

人口少き地方

日本海方面、奥羽地方、四國九州  
の南部、北海道、臺灣の東部、

(ト)世界人口の粗密

最も密なる大洲……………ヨーロッパ、

最も疎なる大洲……………オーストラリヤ、

最も密なる地方……………支那本部、印度、中央ヨーロッパ、

清 國……………二二三〇、一三三〇、〇〇〇

ロシヤ……………一二九、〇〇六、〇〇〇

人口多き國 ドイツ……………五六、三六七、〇〇〇

イギリス……………四一、九五七、〇〇〇

フランス……………三八、九六二、〇〇〇

アメリカ合衆國……………七六、三〇四、〇〇〇

(ニ)言語

廣く使用せらるゝ國語

イギリス語……………世界の商用語

フランス語……………上流社會の交際用語、外交用語、

ドイツ語……………學術用語

イスパニヤ語

支那語、印度語、

日本各府縣の人口 (明治三十四年)



府縣

本籍人

現在居住人

東京	一、五〇八、三四四	一、九七八、三八二
京都	九三一、五六〇	九八七、七一七
大阪	一、三一一、九〇九	一、五九一、一〇五
神奈川	七七六、六八五	九一八、九〇五
兵庫	一、六六七、二二六	一、七一六、八二四
長崎	八二一、三三三	九一六、七六四
新潟	一、八一二、二七二	一、七二一、七四四
埼玉	一、一七四、〇九四	一、一六〇、四〇一
群馬	七七四、六〇四	八二二、四二四
千葉	一、二七三、三八九	一、二六〇、九八二
茨城	一、一三一、五五六	一、一五四、二五五

栃木	七八八、三二四	八三三、一六二
奈良	五三八、五〇七	五三二、〇七六
三重	九九六、四一一	九七八、三二〇
愛知	一、九五一、三五六	一、六〇七、五五〇
静岡	一、一九九、八〇五	一、二〇二、五七三
山梨	四九八、五三九	五〇三、六〇五
滋賀	七一二、〇二四	六六七、一四九
岐阜	九九六、〇六二	九六〇、九四六
長野	一、二三七、六二七	一、二五二、九九九
宮城	八三五、八三〇	八五七、八三七
福島	一、〇五七、九七一	一、一一〇、五四八
岩手	七二〇、三八六	七二〇、七二七



青森	六二二、一七一	六二八、四五四
山形	八二九、二一〇	八三八、一七五
秋田	七七五、〇七七	七八九、八六二
福井	六三三、八四〇	六〇七、七五三
石川	七八一、七八四	七二二、六六〇
富山	七八五、五五四	七四六、五六一
鳥取	四一八、九二九	四一四、二四一
島根	七二一、四四八	七〇八、六三三
岡山	一、一三二、〇〇〇	一、一一四、七四六
廣島	一、四三六、四一〇	一、四六一、二三九
山口	九八六、一六一	九七〇、〇三九
和歌山	六八一、五七二	六七三、八五九

德島	六九九、三九八	六六九、六四三
香川	七〇〇、四〇一	六八一、六五八
愛媛	九九七、四六八	九九一、一一八
高知	六一六、五四九	六一九、二九五
福岡	一、三六二、七七七	一、四五五、一一一
大分	八三九、四八五	八三四、五七六
佐賀	六二一、〇一一	六二八、六二八
熊本	一、一五一、四〇一	一、一六二、六五九
宮崎	四五四、七三〇	四六七、八四〇
鹿兒島	一、一〇六、九〇九	一、一二一、一〇四
沖繩	四五三、五五〇	四七八、八四六
北海道	六一〇、一五五	一、〇〇三、七五一



臺灣

二、九二五、〇七二

人口二萬以上の都會 (明治三十一年關)

東京	一、四四〇、二二一	大阪	八二一、二三五
京都	三五三、一三九	名古屋	二四四、一四五
神戸	二二五、七八〇	横濱	一九三、七六二
廣島	一三二、三〇六	長崎	一〇七、四二二
金澤	八三、六六二	仙臺	八三、三三五
函館	七八、〇四〇	福岡	六六、一九〇
和歌山	六三、六六七	徳島	六一、五〇一
熊本	六一、四六三	富山	五九、五五八
岡山	五八、〇二五	小樽	五六、九六一

鹿兒島	五三、四八一	新潟	五三、三六六
堺	五〇、二〇三	福井	四四、二八六
下ノ關	四三、七八六	静岡	四二、一七二
甲府	三七、五六一	佐世保	三七、四八五
札幌	三七、四八二	松山	三六、五四五
高知	三六、五一一	那覇	三五、四五三
山形	三五、三〇〇	姫路	三五、二八二
弘前	三四、七七一	松江	三四、六五一
前橋	三四、四九五	高松	三四、四一六
大津	三四、二二五	水戸	三三、七七八
津	三三、二八七	盛岡	三三、九八八
佐賀	三三、七五二	宇都宮	三三、〇六九



岐阜	三二、九四二	高岡	三一、四九〇
松本	三一、三二四	長野	三一、三一九
高崎	三〇、八九三	米澤	三〇、七一九
奈良	三〇、五三九	秋田	二九、四七七
若松	二九、二〇〇	久留米	二九、〇〇八
鳥取	二八、四九六	青森	二八、〇二九
宇治山田町	二七、九九〇	小倉	二七、五〇四
千葉	二六、二三三	谷山村 <small>(原)</small>	二五、九九七
門司	二五、二七四	四日市	二五、二二〇
丸龜	二四、九七七	熱海	二四、九四一
首里	二四、八〇九	横須賀	二四、七五〇
上田 <small>(浪信)</small>	二四、一一四	相生	二三、九九一

八王子	二三、二〇三	栃木	二三、三七九
尾ノ道	二三、三一二	穎娃村 <small>(原)</small>	二三、〇五六
酒田	二二、九三七	豊橋	二二、七八五
和庄 <small>(安)</small>	二二、五五三	伏見	二二、五一五
足利	二二、三四八	明石	二二、一九六
東南方村 <small>(原)</small>	二二、一二一	福島	二〇、六二四
鶴岡	二〇、四六一	戸太 <small>(藏)</small>	二〇、三三二
高田	二〇、三一五	桑名	二〇、一三一



高等小算術書 四

1 比例

●比

○ $a:b$  この比に於て、 $a$ を比の前項といひ、 $b$ を比の後項といふ。比の値は、その前項を分子とし、後項を分母とした分數に等し。

○比の兩項に、同じ數をかけても、同じ數で割つても、比の値には變りはない。

$$\frac{\text{前項}}{\text{後項}} = \text{比の値} \quad \text{故に} \quad \text{前項} = (\text{後項}) \times (\text{比の値}),$$
$$\frac{\text{後項}}{\text{前項}} = \text{比の値}.$$



○分數の比を、整数の比に直すには、その分母の公倍数を、比の兩項に掛くべし。

●正比例

○二つの比が、相等しいことを表す式を、比例式といふ。

$8$  第四項    第一項と第四項とを、比例の外項といひ、第二  
 $24$  第三項    項と、第三項とを、内項といふ。  
 $=$             外項の積は、常に内項の積に等しい。  
 $5$  第二項    比例式の三つの項がわかつてをれば、他の一つ  
 $15$  第一項    の項は直に、求められる。

○比例式の三つの項を知つて居て、他の一つの項を求むる計算を、比例式を解くといふ。

$75 : 5 = 45 : x$

$75 : 5 = 45 : x$  の比は等しいから、その比の値は、もごより等しくある、そして、 $75 : 5$  の比の値は、 $15$  であるから、 $45 + 15 = x$  は、即ちである。

又内項の積は、外項の積に等しいから、内項の積  $5 \times 45$  を、一つの外項  $75$  で割れば、直に  $x$  即ち  $x$  を知り得。

○比例式を解くは、常にこの理によりて計算すべし。

- (1) 紙六束の價一圓五十錢なれば、十束の價は何程か。
- (2) 汽船が十六時間に、三百七十五海里走れり、この割合にて、二十四時間には、何海里行くか。
- (3) 大工が家を建つるに、十五日間に、その仕事の五分の二だけ造り上げたり、なほ何日にして終るか。
- (4) 三十日間に、二百八十圓を儲けたる割合で、十二日間には、何



程儲けるか。

◎ 反比例

○反比例するもの、比例式を作るには、第一項第二項を順に取れば第三項と第四項とを逆に取るのである。

第一項第二項を逆に取り、第三項第四項を順に取りてもよし。

(5) 毎日九里行けば、十日に行く所を、毎日十里づゝ行けば、何日に行くか。

(6) 一時間に八里づゝ行く汽車が、三時間に行きつく所に、一時に六里行く電車は、何時間に行くか。

(7) 馬車と人力車との速力を、四と三との比とすれば、馬車が十五時間に行く所を、人力車は何時間に行くか。

(8) 間口十二間、奥行十五間の地あり、これと、坪数同じく、間口

十三間半の地は、奥行何間あるか。

◎ 比例の問題

(9) 元金百圓の利子を、金五圓とすれば、利子十八圓の元金は何圓なるか。

(10) 元金百圓の利子を六圓とすれば、四百五十圓の元金には、何圓の利子を生ずるか。

(11) 兵士三百五十人が、六十日間食ふ米ありしに、今百五十人の兵が来り加らば、何日間の食料あるか。

(12) 大工が、三日間に賃金一圓六十錢を得たり、一週間働かば、何程多く受取るべきか。

(13) 一俵四斗二升入の米、一千五百俵あり、これを、四斗五升入に改むれば、何俵となるか。



- (14) 一升の代金四十五錢の酒九升と、上等酒五升の代と等しとせば上酒一升代はいくらか。
- (15) 男が五日にする仕事を、女は七日かゝるゝすれば、女が二十四日にするゝことを、男と女と一人づゝにてなせば、何日になし終るか。
- (16) ニダースの鉛筆代十八錢なれば、三十六本を、三十錢に賣れば何程の利益となるか。
- (17) 男工九日分の賃金と、女工十四日分の賃金と等しとすれば、男工が、九圓十錢を得る間に、女工は何程得るか。
- (18) 日露戦争に於て、日本兵三千人を以て、露兵一萬五千人に勝ちたりといふ、日本兵一人は、露兵何人に匹敵せしか。
- (19) 日本の一圓四十八錢は、露國の一ルーブルに當る、一億ルーブルは、日本の何圓に當るか。

- (20) 砂糖三十六斤入二十八桶あり、これを四十二斤入に詰めかへれば、幾桶となるか。
- (21) 一枚二十一行に書けば、四十枚となる本あり、三十枚の本とせんには何行とすべきか。
- (22) 東京より横濱まで十八哩間を、五十分間に走れる汽車は、東京神戸間三百七十八哩を、何時間に走るか。
- (23) 米三斗五升入一俵の代、四圓二十錢なれば、四斗入二十三俵代はいくらか。
- (24) 十五人にて、一週間に出來上る仕事を、五日間に成就せしめんには、何人増すべきか。
- (25) 攝氏の寒暖計にて八十五度を、華氏の温度に換算せよ。



- (26) 華氏の九十五度を、攝氏の温度に換算せよ。
- (27) 十二人が、十日にする仕事を、十五日になさしめんには、何人少くしてよきか。

- (28) 甲所より乙所に行くに、毎日十里行けば九日に達す、今、二日早く行かんには、毎日何里づゝ行くべきか、

◎ 複 比 例

○二つ以上の比の複比とは、前項の積が、後項の積に對する比をいふなり

○複比を書くには、次の如く、その比を上下にそろへて書き、これに括弧を施すべし。

$$\begin{array}{l} 5 : 7 \\ 3 : 4 \end{array} \quad \begin{array}{l} 7 : 6 \\ 5 : 7 \end{array} \quad \begin{array}{l} 5 : 5 \\ 3 : 3 \end{array}$$

この値は、

$$\frac{45 \times 12 : 5 \times 3}{45 \times 12 : 5 \times 3}$$

$$\frac{45 \times 12}{5 \times 3} = 36$$

故に複比例式  $\left. \begin{array}{l} 5 : 8 \\ 4 : 7 \end{array} \right\} = 10 : x$  は、

$(5 \times 4) : (8 \times 7) = 10 : x$  に同じ、故に、この比例式を解くは、やはり、外項の積は、内項の積に等しき理により、

$$x = \frac{8 \times 7 \times 10}{5 \times 4} = 28 \text{ なり}$$

- (29) 大工五人が、六日の間働きて、賃金二十圓を得れば、六人が七日間働けば、何圓を得るか。
- (30) 毎日八時間働きて、十日間に九圓六十錢を得たる割合にて、毎日九時間づゝ、十五日間働けば、何圓を得るか。
- (31) 麥五斗入十五俵の代金四十三圓五十錢なれば、四斗五升入百俵



の代金はいくらか。

- (32) 一枚二十四行にて、一行十字詰こすれば、十五枚こなるものあり、これを、一枚十行、九字詰こすれば、何枚こなるか。
- (33) 長さ三尺六寸、幅二尺八寸の紙を張れば、二千枚要する所を、長さ三尺二寸、幅二尺一寸の紙にて張れば、何枚いるか。
- (34) 大工十二人にて、毎日九時間働けば、八日にできる仕事あり、今大工を八人こし、毎日十時間づゝ働かせば、何日にでき上るか。
- (35) 女工十四人が、二百十反を織り上げるに十日かゝれり、この割合で、九人が二百七十反織るには、何日かゝるか。
- (36) 大麥四斗二升入七十五俵の代金百八十圓の相場なれば、金四十圓にて、五斗入の麥何俵買ひ得るか。

- (37) 八人家内で、十五日間に米六斗を食へり、この割合で、十二人が、一石三斗八升を食ふには、何日の間なるか。

◎複比例の問題

- (38) 十二貫目の荷物を、百五十哩送る賃金一圓四十四錢なれば、四貫五百目のものを、三十哩の地に送る賃金何程か。
- (39) 米を搗くに、二十四臺で、毎日七時間づゝ搗けば、十八日に終る、今二十七臺の器械で、毎日八時間づゝ搗けば、何日に終るべきか。
- (40) 土方三十人にて、八十間ある堤防を、四十八日間に築きたり、この割合で、二十五人が、百間の堤防を築くに、何日かゝるか
- (41) 馬と牛との飼料一日の比は、五と七との如し、馬七頭を、六十日間飼はれる飼料で、牛十五頭を、何日飼はれるか。



- (42) 農夫六人で、四日間に七反二畝の畑を耕したり、五人が、十二日間には、何畝歩を耕すか。
- (43) 元金五十圓を、年利一割にて貸しつけ、利子八圓を得る間に元金二百圓を貸し付け、利金二十五圓六十錢を得るには、年利率を何程とすべきか。

◎ 比例雜問

- (44) 人力車に乗りて、三時四十分間に十里行きたる割合で、二十四里行くには、何時間かゝるか。
- (45) 鉛筆を六人に分配するに、十二本づゝ與へられる數をもつて、九人に與ふれば何本づゝか。
- (46) 男女織工の力は、五と三との如し、男工が一日に、二丈の布を織るゝすれば、男女共に一日に織る高何程か。

- (47) 十五坪の代金一千六百五十圓の宅地あり、この宅地を、間口七間半、奥行十三間買はゝ、その代金何程か。
- (48) 木挽八人にて、十三日間に、板三千九百枚を造りたり、この割合で、五人が十四日間には、何枚造るか。
- (49) 一枚十二行、二十四字詰の本二百七十五枚あり、これを、十五行、二十二字詰とすれば、何枚となるか。
- (50) 間口五十六間、奥行三十六間の宅地が、代金四千八百圓なれば間口七十二間、奥行四十二間の宅地はいくらか。
- (51) 親子の大工あり、その力の比は四と三との如し、二人共同して十二日になすことを、子一人にてなせば何日かゝるか。
- (52) 紙百八十六枚を、兄弟三人に分配するに、長子十四、次子十、三子七の比に分てば、各何枚づゝか。



- (53) 甲は二百圓を十ヶ月、乙は三百圓を六ヶ月、丙は二百圓を十一ヶ月間出して商業をなし、利益九百圓を得たり、出資高と月數とに応じて分配すれば、各何程づゝか。
- (54) 道路を修繕するに、人夫十八人にて、毎日十二時間働き、二十五日に終りたり、同様の道を入り十五人にて、毎日九時間づゝ働けば、何日を要するか。
- (55) 畑地二反六畝歩の代價五十六圓四十錢の地あり、この割合にて七畝歩の代金は何程か。
- (56) 男工五人、女工六人を、十六日間雇ひて、賃金總計六十四圓八十錢を渡せり、これを、男三、女二の比に分配すれば、各一人何程づゝ取るべきか。
- (57) 甲は資本金五百圓を四ヶ月間出し、乙は四百圓を六ヶ月間出し

て商業をなし、一百七十六圓の損失を招けり、これを如何に負擔せばよきか。

- (58) 一日一人の食米五合とし、四千五百人が、七ヶ月間食ふ米ありこれを、四千三百七十五人が、九ヶ月分の食米とすれば、一日一人分何合とすべきか。
- (59) 長さ八間、横十二間の地所の代金七十六圓八十錢なれば、長さ三間、横十五間の地所の代金いくらか。
- (60) 三時四十五分間に、絹一丈二尺を織る器械は、一反織るに何時間かゝるか。
- (61) 三人に木を割らせる時は、八時四十五分間かゝれり、これと同じ程の木を、五人に割らせるに、何時間かゝるか。
- (62) 茶三十六斤入二十八袋あり、これを、一袋に六斤づゝ多く入れ



るこ、幾袋となるか。

(63) 或荷物を、十二里十二町送るに、運賃三圓七十錢を要したり、同じ荷物を、十八里二十四町送る運賃何程か。

(64) 百四十人乗組の船が、五十日間の食米四十五石五斗を積み、この割合で、三十五人乗組の船が、九十日間の航海には、食米何程を要するか。

(65) 石炭を運ぶに、車十五臺を用ひ、毎日七回通へば、六日を要すべきを、車十八臺とし、毎日五回とせば、何日に運ぶか。

(66) 米を運ぶに、仲仕二十四人が、毎日七時間働けば、十八日を要すべし、今仲仕を二十七人とし、毎日八時間働けば、何日に運び終るか。

(67) 一ケ年の家賃を、七十五圓とすれば、十五ヶ月分の家賃は何圓なるか。

(68) 四ヶ村の有志者が、金六百三十圓を恤兵部に献金するに、甲村に六十人、乙村に五十人、丙村に四十人、丁村に三十人あり、各村の負擔額及平均一人の出金高幾何。



## 算術答及式

### 1 比例

- (1)  $6:10=150:x$   $\frac{10 \times \frac{25}{150}}{6} = 10 \times 25$   $250$
- (2)  $16:24=375:x$   $x=256\frac{1}{2}$  磅
- (3)  $\frac{2}{5}:(1-\frac{2}{5})=15:x$   $x=22\frac{1}{2}$  日
- (4)  $30:12=280:x$   $x=112$  圓
- (5)  $10:9=10:x$   $x=9$  日
- (6)  $8:6=x:3$   $x=4$  時間
- (7)  $3:4=15:x$   $x=20$  時間



- (8)  $12:13\frac{1}{2} = x:15$   $x = 13\frac{1}{3}$  日
- (9)  $5:18 = 100:x$  (正)  $x = 360$  日
- (10)  $100:450 = 8:x$  (正)  $x = 27$  日
- (11)  $350:(350+150) = x:60$  (反)  $x = 42$  日
- (12)  $3:7 = 160:x$  (正)  $x - 160 =$   $x = 2$  日  $1.33$  日
- (13)  $42:45 = 1500$  (反)  $x = 1400$  日
- (14)  $9:5x = 45$  (反)  $x = 81$  日
- (15)  $\frac{1}{7}:(\frac{1}{5} + \frac{5}{7}) = x:24$  (反)  $x = 10$  日
- (16)  $30 - (24:36 = 18:x)$  (正)  $x = 3$  日
- (17)  $9:14 = x:9.10$  (反)  $x = 5$  日  $85$

- (18)  $3000:15000 = 1:x$  (正)  $x = 5$  人
- (19)  $1:100000000 = 1.48:x$   $x = 148000000$  日
- (20)  $36:42 = x:28$  (反)  $x = 24$  日
- (21)  $40:30 = 21$  (反)  $x = 28$  日
- (22)  $18:378 = 50:x$  (正)  $x = 17$  日  $30$  分
- (23)  $35:(40 \times 23) = 4.20:x$  (正)  $x = 110$  日  $40$
- (24)  $(7:5 = x:15) - 15$  (反)  $x = 6$  人
- (25)  $100:(212 - 32) = 85:x$   $x = 185$  日
- (26)  $(212 - 32):100 = (95 - 32):x$   $x = 35$  日
- (27)  $12 - (10:15 = x:12)$  (反)  $x = 4$  人



(28)	$9 : (9 - 2) = x : 10$ (反)	$x = 12\frac{6}{7}$ 日
(29)	$\left. \begin{array}{l} \text{(正)} \quad 5 : 6 \\ \text{(正)} \quad 6 : 7 \end{array} \right\} = 20 : x$	$x = 28$ 日
(30)	$\left. \begin{array}{l} \text{(正)} \quad 8\frac{2}{3} : 9 \\ \text{(正)} \quad 10 : 15 \end{array} \right\} = 9.60 : x$	$x = 16$ 日 20 分
(31)	$\left. \begin{array}{l} \text{(正)} \quad 50 : 45 \\ \text{(正)} \quad 15 : 100 \end{array} \right\} = 48.50 : x$	$x = 216$ 日
(32)	$\left. \begin{array}{l} \text{(反)} \quad 10 : 24 \\ \text{(反)} \quad 9 : 10 \end{array} \right\} = 15 : x$	$x = 40$ 日
(33)	$\left. \begin{array}{l} \text{(反)} \quad 32 : 36 \\ \text{(反)} \quad 21 : 28 \end{array} \right\} = 2000 : x$	$x = 3000$ 日

(34)	$\left. \begin{array}{l} \text{(反)} \quad 8 : 12 \\ \text{(反)} \quad 10 : 9 \end{array} \right\} = 8 : x$	$x = 10\frac{4}{5}$ 日
(35)	$\left. \begin{array}{l} \text{(反)} \quad 9 : 14 \\ \text{(正)} \quad 210 : 270 \end{array} \right\} = 10 : x$	$x = 20$ 日
(36)	$\left. \begin{array}{l} \text{(反)} \quad 50 : 24 \\ \text{(正)} \quad 180 : 40 \end{array} \right\} = 75 : x$	$x = 14$ 日
(37)	$\left. \begin{array}{l} \text{(反)} \quad 12 : 8 \\ \text{(正)} \quad 60 : 138 \end{array} \right\} = 15 : x$	$x = 23$ 日
(38)	$\left. \begin{array}{l} \text{(正)} \quad 12 : 45 \\ \text{(正)} \quad 150 : 30 \end{array} \right\} = 144 : x$	$x = 108$ 日
(39)	$\left. \begin{array}{l} \text{(反)} \quad 27 : 24 \\ \text{(反)} \quad 8 : -7 \end{array} \right\} = 18 : x$	$x = 14$ 日



(40) (反)  $25:30 \left. \vphantom{25:30} \right\} = 48:x$   $x=72.日$   
 (正)  $80:100 \left. \vphantom{80:100} \right\}$

(41) (反)  $7:5 \left. \vphantom{7:5} \right\} = 60:x$   $x=20.日$   
 (反)  $15:7 \left. \vphantom{15:7} \right\}$

(42) (正)  $6:5 \left. \vphantom{6:5} \right\} = 72:x$   $x=18.反$   
 (正)  $4:12 \left. \vphantom{4:12} \right\}$

(43) (正)  $8:256 \left. \vphantom{8:256} \right\} = 0.1:x$   $x=0.08分$   
 (反)  $200:50 \left. \vphantom{200:50} \right\}$

(44) (正)  $10:24 = 3\frac{40}{60}:x$   $x=8\frac{40}{分}$

(45) (反)  $9:6 = 12:x$   $x=8.米$

(46) (反)  $5:(5+3) = 20:x$   $x=32尺$

(47) (正)  $15:(7\frac{1}{2} \times 13) = 1650:x$   $x=10725.圓$

(48) (正)  $8:5 \left. \vphantom{8:5} \right\} = 3900:x$   $x=2625.枚$   
 (正)  $13:14 \left. \vphantom{13:14} \right\}$

(49) (反)  $15:12 \left. \vphantom{15:12} \right\} = 275:x$   $x=240.枚$   
 (反)  $22:24 \left. \vphantom{22:24} \right\}$

(50) (正)  $56:72 \left. \vphantom{56:72} \right\} = 4800:x$   $x=7200.圓$   
 (正)  $36:42 \left. \vphantom{36:42} \right\}$

(51)  $(4+3):3 = x:12$   $x=28.日$

(52)  $14+10+7=31$



(正)  $31:14=186:x$   $x=84$  長子

(正)  $31:10=186:x$   $x=60$  次子

(正)  $31:7=186:x$   $x=42$  三子

或は  $186 \times \frac{14}{31} = \text{長子} 84.$

(53) 甲  $200. \times 10 = 2000.$

乙  $300. \times 6 = 1800.$  } + 6000.

丙  $200. \times 12 = 2000.$  }

$900 \times \frac{2000}{6000} = \text{甲} 300.$

$900 \times \frac{1800}{6000} = \text{乙} 270.$

$900 \times \frac{2200}{6000} = \text{丙} 330.$

(54) (反)  $15:18$  } =  $25:x$   $x=40$

(反)  $9:12$

(55) (正)  $20:7=5640:x$   $x=15. \frac{8}{13}$

(56)  $5 \times 3 = 15$   $6 \times 2 = 12$   $15 + 12 = 27$

$64.80 \times \frac{15}{27} \div 5 = \text{男} 7. \frac{2}{3}$

$64.80 \times \frac{12}{27} \div 6 = \text{女} 4. \frac{2}{3}$

(57)  $500. \times 4 = 2000.$  } +  $4400.$   
 $400. \times 6 = 2400.$  }

$176 \times \frac{2000}{4400} = \text{甲} 80.$



$$176 \times \frac{2400}{4400} = \text{乙} \quad 96. \blacksquare$$

$$\begin{aligned} (58) \quad & \left. \begin{array}{l} \text{(反)} \quad 4375:4500 \\ \text{(反)} \quad 9 : 7 \end{array} \right\} = 5:x \quad x=4. \blacksquare \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (59) \quad & \left. \begin{array}{l} \text{(正)} \quad 8 : 3 \\ \text{(正)} \quad 12:15 \end{array} \right\} = 70.8:x \quad x=36. \blacksquare \end{aligned}$$

$$(60) \quad \text{(正)} \quad 12:28 = 3\frac{4}{5} : x \quad x=8 \text{ 时 } 45 \text{ 分}$$

$$(61) \quad \text{(反)} \quad 3:5 = x:8\frac{4}{5} \quad x=5 \text{ 时 } 15 \text{ 分}$$

$$(62) \quad \text{(反)} \quad (30+6):30 = 28:x \quad x=24 \text{ 时}$$

$$(63) \quad \text{(正)} \quad 12\frac{1}{3} : 18\frac{2}{3} = 3.70:x \quad x=5 \text{ 时 } 60$$

$$(64) \quad \left. \begin{array}{l} \text{(正)} \quad 140:35 \\ \text{(正)} \quad 50:90 \end{array} \right\} = 45.5:x \quad x=20 \text{ 时 } 4\frac{3}{4}$$

$$(65) \quad \left. \begin{array}{l} \text{(反)} \quad 18:15 \\ \text{(反)} \quad 5:7 \end{array} \right\} = 6:x \quad x=7. \text{ 时}$$

$$(66) \quad \left. \begin{array}{l} \text{(反)} \quad 27:24 \\ \text{(反)} \quad 8:7 \end{array} \right\} = 18:x \quad x=14. \text{ 时}$$

$$(67) \quad \text{(正)} \quad 12:15 = 75:x \quad x=93. \text{ 时 } 75$$

$$(68) \quad 60+50+40+30=180.$$

$$830 \times \frac{60}{180} = \text{甲} \quad 210. \blacksquare$$

$$830 \times \frac{50}{180} = \text{乙} \quad 175. \blacksquare$$



$$630 \times \frac{40}{180} = \text{丙} \quad 140. \blacksquare$$

$$630 \times \frac{30}{180} = \text{丁} \quad 105. \blacksquare$$

小學理科 卷四

第一 化合と分解

化合とは、二種以上のものが結びついて、全く異つた物の生ずるをいひ、分解とは、一つの物がわかれて、全く異つた二つ以上のものとなるをいふ。鐵の錆びるのは、空氣中にある酸素と、鐵と化合して、鐵でもなく、酸素でもない酸化鐵といふものになつたので、これ即化合作用である。この酸化鐵は、或方法によつて、酸素と鐵とに分つことができる、これ即分解である。

化合と混合とよく似てをるものがあるから、まちがへぬ様にせねばならぬ。塩を水の中に入れると、塩は全く姿を失ひ、水は鹹くなる。けれども、これは、水の分子の間に塩が入りまじつてをるので混合してをるに過ぎぬ。又火薬は、硫黃、硝石、木炭などでこしらへた



もので、一見した所では、化合物の様であるが、細かにしらべて見れば、硫黄も硝石も木炭もそのまゝにあつて、混合してをる計りである。これに火をつけるこ、忽ち化合して、多くの瓦斯を生ずるのである。

化合して出来てをるものを化合物といひ、混合してをる計りのものを、混合物といふ。

分解しつくして、それより以上に分解するここのできぬ、単体となつたものを、元素といふ。

(イ) 水

水は化合物である。二本の硝子管に水をみだし、水を入れた盤中に倒に立て、其下口に、各電氣の一端をさし入れて電流を通ずるこ、水は分解せられて、小さい泡が管中に集る。そして、一方は、他の

方の二倍集る。この少い方は酸素で、多い方は水素といふ元素である。酸素、水素の性質に就ては、次に述べる。

酸素一、水素二の容積をこり、これに火をつけて化合されるこ、液体となる。この液体は、純粹の水ロエンスタイにちがひない。

右の試験によつて、水は酸素と水素との化合物であるこが知れる。

(ロ) 酸 素

多くの酸素をこるには、塩素カリウム二酸化マンガンを、よく細かに碎き、十分に濕氣のない様にして、これをフラスコに入れ酒精燈で熱するこ出てくる。これをゴム管で水槽中に導き、水を充てた瓶を倒にして、その口へ導き、幾瓶にも集めて試験に用ふるのである。

酸素は、無色、無味、無臭の氣體で、空氣よりも少しく重く、よく



物を燃す力がある。すべて物の燃えるのは、この酸素の力である。金属と化合して錆を生ぜしめる。

試験一、酸素瓶中に、硫黄に火をつけたものを入れる。非常に美しくよく燃える。

試験二、酸素瓶中に、燐(手を觸れぬ様に、水中で切るべし)の薄片に火をつけたものを入れる。目もくらむ計りの烈しい光りをはなつて燃える。

試験三、蠟燭に火をこもしおき、これを吹き消して、すぐに酸素瓶中に入れる。忽ち火がつく。燐寸に火のついたのを吹き消して入れても、同じく火がつく。

試験四、木炭の一隅に火をつけて、酸素瓶の中に入れる。その炭はすぐ火になる。

試験五、小さい鐵の針金の一端を燃き、赤くなつたものを酸素瓶中に入れる。針金は、火花をちらして燃える。

右の試験によつて、酸素が、いかに物を燃す力の強いかわかる。

### (ハ) 水素

水素を多く集めるには、亜鉛の屑を瓶に入れ、これに稀硫酸希硫酸を注ぐのである。これを、酸素と同じ装置で瓶中に集める。

水素は、無色、無味、無臭の元素で、空気よりも十四倍半軽いものである。青白い焰をあげてよく燃え、水を生ずる。空気又は酸素と混合してをるものに、火をつける。烈しい音を發して化合する。輕氣球用として、最よろしいけれども、費用が多くかゝるので輕氣球には、大抵石炭瓦斯を用ひる。

試験一、一つの口の大きな瓶を倒さまに左手に持ち、水素を充た



した瓶を倒さまに右手に持つて来て、左手の瓶の口へ、水素瓶の口をよせておいて、静かに右手を下げるこゝ、水素は皆上の瓶にうつつてしまふ。これ水素の軽い證據で、左手の瓶にうつつてをるか否かは、次の如き試験をして見る。

試験二、長さ一寸程の蠟燭に火をつけ、針金の先きにさして、水素瓶中にさし込むこゝ、火は消えてしまふ。静かに引き出すこゝ瓶の口で又火がつく、數度くりかへしても同様である。これは、よく注意して見るこゝ、蠟燭の火のために、水素は、瓶の口で盛にもえてをるので、又、水素中では、物は燃えぬこゝも知られる。

## (二) 海水と食塩

海水中には、その一千分中凡そ二十五の塩を含んでゐる。これ、陸

上の水が、流れる間に、土中にある塩を溶解して海に入り、海水は、絶えず蒸發して、あゝに塩分を残したのである。

海水から食塩をこるには、清潔な砂に、屢海水を注ぎかけて、水分を蒸發させ、後清水を注いで洗ひ落し、その濃い溶液を釜に入れて煮立て、煎じつめたものである。

食塩は、白色の固体で、よく水に溶け、鹹味がある。岩塩といふて、山から堀り取るものもある。食物調理上欠くべからざる計りでなく、物の腐敗するを防ぎ、ソーダ、塩酸などを製するに用ひる。

## (ホ) 塩酸と塩素

食塩に硫酸を注ぎ、これを熱し、出て来る氣體を水に溶かせば、塩酸となる。塩酸は、無色の液体で、劇しい臭がある。塩素と水素との化合物で、普通の金屬を溶解し、衣服につけばばろくになり、



皮膚を害するなど、劇しい働きをするから、注意して取扱はねばならぬ。工業用、醫藥として多く用ふ。

塩素を取るには、二酸化マンガニ、濃き塩酸を注ぐのである。空氣よりも、二倍半重いから、水素や酸素の如く、水の中で集めるに及ばぬ、ゴム管の端を、集めんとする瓶中にさしこんでおけば、帶黃綠色の氣體が出て來て、空氣を追ひ出して、あごを占領する。併し、この氣體を吸ふと、咽喉(のど)を害するから、四方の窓を明け放ち、成る丈け吸ひこまぬ様にする、吸いこんだら、酒精をかくがよろしい。

塩素は、少しく水に溶解し、物の色を褪ます力が強いから、石灰に吸収させて、晒粉とし、布、紙などを漂白するに用ひる。

草花、染めた織物、糸などを瓶の中に入れ置き、これに塩素を通ず

ると、たちまち色が褪めてしまふ。

### (へ) 空氣の成分、アンモニヤ

空氣中に酸素のあることは、物のよく燃ゆると、金屬の錆を生ずるによりても知られる。然れども、空氣は、酸素の外に、多くの他のものを混じてをる。

水槽中に木片を浮べ、燐の小片をのせて火をつけ、直に大きな瓶でこれを被ふと、燐は、瓶の中にある空氣の酸素をこりて燃え、盛に白烟を發し、その白烟は、漸次水に溶け去り、水は、瓶内の凡そ五分の一の所までのぼる。この残つてをる氣體は、主として窒素といふもので、その中には、火も燃えず、動物は、窒息して死んでしまふ。けれども、この窒素は、動物植物の体形を組織してをる主要な成分である。



これにより、空氣は、五分の一の酸素と、五分の四の窒素とよりなつてをることが知られる。併し、精密にしらべて見るに、五分の四の内には、炭酸瓦斯その他の物を少しづつ、含んでをる、そして空氣は、化合物ではなく、混合物である。

アンモニヤと稱する瓦斯体は、窒素と水素との化合物で、烈しき悪臭をもち、水に溶解易く、赤色試験紙を青くする性がある。便所から發散する劇臭も、アンモニヤである。

(ト) 硝 酸

硝石を細かく碎き、これに硫酸を加へ、熱して、出て來る蒸氣を冷すに、硝酸ができる。硝酸は、劇臭ある無色の液体で、酸素、水素、窒素の化合物である。諸物を腐蝕し、金屬を溶かし、青色試験紙を青くするなど、その性質よく塩酸に似て、その力が一層はげしいものである。

(チ) 硫 黄、 硫 酸

硫黄は、黄色の固体で、一つの元素である。火山の近傍から多く産出し、溶解易く、燃え易く、その燃ゆる時には、青色の焰を放ち、劇しい臭がある。

硝石、木炭と混合して火薬を製造し、又硫酸を製するに用ふ。硫酸は、油の如き無色の液体で、硫黄、水素、酸素より成り、その性質硝酸に同じ。

(リ) 酸 類、 塩 基 (アルカリ)

硝酸、硫酸、塩酸の如く、酸味があつて、青色試験紙を赤く變ずるものを、すべて酸類といふ。アンモニヤの如く、赤色試験紙を青く變ずる性質のものを、塩基といふ。苛性加里、苛性曹達も亦塩基で



ある。

酸類と塩基とが作用するとき、塩を生ず。

(又) 炭酸瓦斯

炭酸瓦斯は、物の燃焼する時に多く生じ、又動物が絶えずはき出すから、常に空気中に混じてをる。

多量の炭酸瓦斯を取るには、石灰石を碎き、塩酸を注ぐのである。無色、無臭の氣體で、空気より重いから、塩素を取つた様な仕方で瓶に集められる。

試験一 炭酸瓦斯中に、透明な石灰水を注げば、忽ち白濁を生ずる。

試験二 蠟燭に火をつけて入れると、消えてしまふ、故に炭酸瓦斯中では、物は燃焼せぬことが知られる。

試験三 炭酸瓦斯中に、小鳥を入れると、窒息して死んでしまふ、故に、炭酸瓦斯中には、動物は生活ができぬから、多人數集つた所、火を盛に燃す所では、空気の流通をよくせねば、害のあることが知られる。

試験四 試験管に、少しばかり透明な石灰水を入れ、これに息を吹き入れて、烈しく振ると、忽ち白濁を生ずる、これによつて、呼氣の中に、炭酸瓦斯があるのがわかる。

植物は、炭酸瓦斯を吸収して、酸素をはくものであるから、人家の周圍に、草木を植えて置くのは、衛生上によろしい。炭酸瓦斯は、よく水に溶け、こゝろよき酸味を呈するから、夏日の飲料とするものが多い。ラムネは、砂糖水に、多くの炭酸瓦斯を溶解したものである。



(ル) 炭素

蠟燭の火の上に、皿を被ふと、黒いものがつく、これは、炭素のごく細かな粉で、焰の中で、燃えなかつたのが離れてきたのである。木炭も、墨も炭素で、木炭は、空気の流通不十分な竈カマの中で、蒸焼にしたものである。

木炭は、諸種の気体や、水蒸気などを吸収する性があるから、不潔の場所、湿気多き場所などに置いて、悪臭をこめ、水気を少くする等の効がある。

石炭も、亦炭素の一つで、これより瓦斯をこつて、燃料にすることは、讀本に詳しく説明してあるから、こゝには省く。

寶石として、最も尊ばれる金剛石も、亦炭素である。

すべて炭素は、酸素と化合して燃焼し、炭酸瓦斯を生ずる。

第二 有機物

動物、植物などの如く、生活作用をしてをるものを、有機体といふ。有機体によつて造られる砂糖、脂肪などの如きものを、有機物といふ。

有機物は、大抵炭素と、水素、酸素、窒素などの化合物である。有機物に對して、水、塩、炭酸瓦斯などを無機物といふ。

(イ) 澱粉

澱粉は、食物の主成分として、最必要のもので、白色の粉末である。各種の植物には、皆多少含んでゐて、中にも、穀物、芋類、果實などの中には、多量に含んでをる。

顕微鏡で見れば、各植物により異つてをるが、皆それ／＼一定の形をそなへてをる。熱にあふと、ふくれて糊糊となる。何れも、炭素、



水素、酸素の化合物であつて。ヨードにあふと、藍色となる。

(ロ) 砂糖

砂糖も、炭素、水素、酸素からできてゐて、容易に燃えるものである。又水に溶解易く、熱すれば、熔けて無色の溶体となり、冷ゆれば、硝子の如き塊となる。久しくすておけば、再び不透明な結晶様のもものとなる。食物の味を調へ、体温を生ずるもので、人体の生存上、せひなくてはならぬものである。

(ハ) 蛋白質、脂肪

蛋白質は、炭素、水素、酸素、窒素と、少しの硫黄とよりなつてゐて、熱せられるか、久しく空氣中にあると、自然にかたまる。鳥の卵、乳汁、血液、筋肉、穀類、豆類等、動植物の体中に含まれてゐて、食物の主要成分をなし、その含まれてゐる多少によつて、

滋養の等級が定まるのである。

脂肪は、鳥獸の肉、及び植物の種子、果實中に含まれてゐる。炭、水、酸の三元素からできてゐて、ここに炭素と水素とが多い。水よりも軽く、水に溶解し難いものである。

脂肪も亦食物の主要なる成分で、血液中の酸素と化合し、体温を生ずるのである。併し、消化には困難なものである。

(ニ) 酒、酢

水と、蒸米と、麴とを混じ、これに酏シロを加へ、醱カキさせて造つたもので、百分中凡そ十二分の酒精を含んでゐる。飲んで酔ふのは、酒精のあるためである。

酒精は、炭水酸、の三元素より成り、つよき香氣を有し、舌を焼くが如き味がある。燃え易く、熱も烈しいが、光りがないから、燭火



にはならぬ。又蛋白質を凝固せしめ、物の腐敗を防ぎ、すこぶる蒸發し易いものである。

酢は、蒸し米こ、麴或は酒の糟に水を加へ、少しの酢を加へ、酸酵させて造る。酒の腐敗したものも亦酢となる。百分中三乃至五の醋酸を含み、酸味があつて、亦炭、水、酸の三元素でできてをる。水よりも少しく重く、腐敗を防ぐものである。

(ホ) 食物の成分

食物は、非常に澤山あるが、これを大別すれば、動物質食物、植物質食物、礦物質食物の三種である。更に細別すれば、穀物類、肉類、野菜類、果實類、飲料類などである。

動物質食物は、蛋白質と脂肪とに富み、植物質食物は、澱粉に富み中には、蛋白質、脂肪に富むものもある。礦物質食物は、礦物質よ

りなる。

食物として必要な成分は「蛋白質、脂肪質、澱粉質、礦物質（含水炭素）の四種である。この四種のもものが、程よく配合されてをるものが、滋養の價値が多いのである。故に、すべて食物は、混食がよろしいのである。

食物の腐敗するは、温氣と温度との爲めに、バクテリアが繁殖するによるので、これを防ぐに、種々の方法がある。

- 一、沸騰して、バクテリアを殺すこと。
- 二、冷して、バクテリアを繁殖させぬこと。氷詰の如し。
- 三、水氣を去つて、バクテリアを生育させぬこと。干物の如し。
- 四、空氣に觸れぬ様にして、バクテリアの侵入を防ぐこと。罐詰の如し。



五、防腐剤を加へて、バクテリアを殺すこと。塩漬、酒精漬、酢漬、砂糖漬、などの如し。

### 第三 動物と植物との關係

#### (イ) 動物と植物との區別

高等の動物植物に於ては、誰もその區別に迷ふものはないが、極下等の動物植物になつては、殆んど差別の立て難いものである。通例感覺のあるこないこは、最も著しい區別の點とするが、植物の中にも、ねむり草、ねむの木等の如く、感覺ある如きものもある。又、動物は、主として動物、植物を食し、植物は、礦物質のみを食すること、食物によつて區別するも、一つの箇條であるが、植物の中にも、蠶取草、たぬきもの如く、動物を食するものもある。又、その位置をかへること、かへぬこによつて、區別するものも一つの

條件であるが、下等の動物には、自ら位置をかへることのできぬものもある。

要するに、動物と植物とは、どこ迄も明瞭に區別することは、できぬものである。

#### (ロ) 動物と植物との關係

植物は、動物の食料、その他の必要に應ぜん爲めのものであるが、妄りに害せられを防ぐために、武器を具へてをるものもある。草木の莖に、細毛を生じ、こげ、針を具へ、しぶ味、酸味をもつなどの類である。併し、又互に相助けるものものも少くない、花が、昆虫の力をかりて實を結び、鳥獸の食料となり、その種子は、糞と共に諸方に運ばれて、植物を繁殖させる等である。

又動物は、炭酸をはき出して、酸素を吸ひ、植物は、酸素をはき出



して、炭酸を吸ひこり、常に空氣を清淨にしてくれる。

高等  
小學  
全學科詳解  
(四學年用)前期終

明治三十九年三月二十日印刷  
明治三十九年四月十日發行

定價拾錢

著者兼  
發行

又間安次郎

大阪市南區安堂寺橋通四丁目三三番邸

印刷者

篠田幸太郎

大阪市西區阿波座裏町二十六番屋敷

發賣所

精華堂書店

東京市神田區通新石町六番地

發賣所

精華堂書店

大阪市中心齋橋通安堂寺町西入

(電話三三六三番)

複製不許



EX-21

も 日 一 の 君 諸 徒 生  
籍 書 る ざ ら か べ く 欠

高等 全學科詳解  
 小學 第一學年 各前期用及全八册  
 第二學年 後期用あり  
 第三學年 一册定價各拾錢  
 第四學年 郵送料各四錢

本書は ○讀本 ○修身 ○  
 書き方 ○歴史 ○地理  
 ○算術 ○理科の七學科の  
 字解と意義を極めて精密に解釋をな  
 したるものなり

國定準據  
 高等 家庭算術  
 小學 例題及解答  
 第一學年 各一册定價八錢  
 第二學年 郵稅各四錢  
 第三學年  
 第四學年

此書は家庭の復習用として例題及解  
 答に二分し前半は略ぼ同程度の例題  
 と其解答を附し後半は全部 國定  
 高等算術書の解式及答を載  
 せたり

店 書 堂 華 精 東 大 所 賣 發







高等  
小学 全学科詳解

第一学年 前期用

第四学年 前期用

国立国会図書館

049190-001-5

特54-718

高等小学全学科詳解 第1-4学年用前期

又間 安次郎 / 著

M39

BEL-0129

